

昨年を上回る快挙を達成

エリアマラソン大会で堂々の二位!



国労仙台

NO. 2536

2008年11月30日

発行責任者 橋本 昭二

編集責任者 武田 昌仙

もう一人の
仲間を国労へ

◆11月15日、国労東日本本部主催による、第13回マラソン大会が皇居外周で開催された。仙台地本からは駅伝競技の部において、仙総支部の組合員らで編成された「国労仙台地本Aチーム」が出場。昨年獲得した地本歴代最高位の3位を上回る、初のシルバーメダルの栄冠に輝いた。

精一杯走り仲間へ繋ぐ

★駅伝競技の部

「スタート30秒前、10秒前、5秒前・・・」海口審判長が号砲合図者の



「まかせた!」 親から子へ襷を繋ぐ

肩を叩くとホイッスルが鳴り響き、一斉にランナーが飛び出した。これから一時間強の時間を要し、各地方本部の意地と名誉を懸けた戦いの火蓋が切られて落とされたのである。出場エントリーはオープン参加の1チームを含む19チーム。下馬評では昨年まで三連覇を飾り、今年は余裕の三チーム編成で参加した長野地本が優勢との評価。

第一走者が戻る5キロ通過時でトップは盛岡、続いて長野A。以下は差のない「団子集団」で二区へ。観衆のどよめきの中、仙台は9位で佐々木晴基から南幅清也へタスキを繋ぐ。力走の南幅は5位に順位を上げ、三区の佐藤勝成へ。仙台は佐藤

地本に新星現る!

今年で13回を数える伝統の大会には、近年組合員の家族等の力を借りた混成チームも多くなり、純粹チームの安泰を脅かしつつある。その意味では昨年の3位入賞は素晴らしい頑張りであったが、一方で「頭打ち」の感が否めないのもまた事実。



だがそうした「限界感」を払拭したのが仙総支部車体分会・高橋真人氏の子息、高橋祐輝さん(26)だ。卓越したその走りを見受け、学生時代からランナーだったのかと



仙台地本の参加者

皆さんお疲れ様でした

の安定した走りでも順位をキープし、レースの鍵を握る第四走者の大知里正へ。しかしこの時点で長野Aは既に2位以下を大きく引き離し、独走態勢に入っていた。「何とか上位へ食込みたい」という大知里の必死の激走に「火がついた」という第五走者の高橋真人が順位を3位に引き上げ、息子の高橋祐輝に願いを託す。五区終了時にトップとの差は3分近くもあったが、約40秒差に縮めての第2位。若者の素晴らしき走り、王者長野を脅かした。【敬称略】

☆駅伝走者紹介

- 一区 5 km 佐々木 晴基
- 二区 2.5 km 南幅 清也
- 三区 2.5 km 佐藤 勝成
- 四区 2.5 km 大知里 正
- 五区 2.5 km 高橋 真人
- 六区 5 km 高橋 祐輝